



Title	日本語格助詞ニ／デと英語前置詞 at
Author(s)	田尾, 俊輔
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2026, 2025, p. 17-26
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104949
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語格助詞ニ／デと英語前置詞 at

田尾 俊輔*

キーワード：格助詞ニ、格助詞デ、前置詞 at、点的場所、移動の着点、動作を行う場所

1 はじめに

日本語の格助詞ニとデは、以下の例文(1)–(2)のように「場所」を表すことができる¹。一般的には、ニはモノが存在する「点的場所」や「動作の着点」を表すのに対し、デは「動作を行う場所」を表すとされる。(1a–d)の各文ではニをデに入れ替えると不自然に感じられ、(2a–f)の各文ではデをニに入れ替えると不自然に感じられる²。

- | | | |
|--------|---------------|-----------------------------|
| (1) a. | 机の上に本がある。 | (岡 2013: 131; 丸山 2022: 132) |
| b. | あごに髭が生える。 | (<i>ibid.</i>) |
| c. | 子どもが学校に着く。 | (<i>ibid.</i>) |
| d. | 糸くずが服につく。 | (<i>ibid.</i>) |
| (2) a. | 庭で犬が吠えている。 | (丸山 2022: 157) |
| b. | 東京ではたらく。 | (<i>ibid.</i>) |
| c. | 図書館で勉強する。 | (岡 2013: 185) |
| d. | その光のしたで新聞を読む。 | (丸山 2022: 158) |
| e. | 会議で発言する。 | (<i>ibid.</i>) |
| f. | ドイツの大学で学んだ。 | (<i>ibid.</i> : 159) |

しかしながら、ニとデの両方が使えそうな文も見受けられる。例えば、(3a–b)では電車やバスが停まる場所としての駅あるいはバス停がニとデによって導入されているが、どちらもよく用いられる表現である。

* 鳴門教育大学大学院学校教育研究科。連絡先メールアドレス：stao@naruto-u.ac.jp

¹ 特に断りのない限り、例文中の下線は筆者が施したものである。

² (2f)の例文内のデをニにすると(=「ドイツの大学に学んだ」)、大学という場所で学ぶ行為を行っているというよりも、大学という場所から様々な学びを得たというニュアンスになる。これは純粋な場所を指しているのではなく、起因的／要因的な解釈であり、本稿での議論の対象とはしない。

- (3) a. {駅／バス停}に止まる。 (作例³)
 b. {駅／バス停}で止まる。 (作例)

(4a)についてはやや堅苦しい古風な表現と評されることもあるが、誤用ではない。その一方で、(4b)は特に問題なく使える表現である。

- (4) a. ? 日本に暮らす⁴。 (作例)
 b. 日本で暮らす。 (森田 2007: 276)

また(5a-b)は、船が沈む場所としての海がニとデで表されている。

- (5) a. 船が海に沈む。 (作例)
 b. 船が海で沈む。 (作例)

このように、ニとデの使い分けは必ずしも明瞭でない部分がある。そして、多くの辞書において英語の前置詞 *at* の訳語に「～に」「～で」が当てられているという実態と重ね合わせて考えてみると、格助詞ニとデ、および前置詞 *at* の関係をどのように考えると良いのかという疑問が生じてくる。そこで本稿では、格助詞ニとデについて特に場所にまつわる意味の違いを精査し、前置詞 *at* との意味との共通点および相違点を明らかにする。

本稿の構成は以下の通りである。2 節では、格助詞ニとデの意味や使用に関する先行研究を概観し、前置詞 *at* の意味との関わりを確認するとともに問題点を抽出する。3 節では、作例やコーパスからの実例を含むニとデの文を複数取り上げて比較検討し、両者の差異を議論する。それらを踏まえ、4 節において前置詞 *at* との比較を行う。最後の 5 節ではまとめと今後の課題を提示する。

2 先行研究の概観

本節では、格助詞ニとデ、および前置詞 *at* の意味について、先行研究でどのように指摘

³ 本稿において、例文の末尾に (作例) と付しているものは、筆者による作例である。

⁴ 本稿では、非文の場合には * を付し、非文とまでは言わないがやや違和感がある表現には ? を付す。

されてきたのかを確認する。

2.1 日本語格助詞ニ

2.1.1 存在の場所、点的場所

丸山 (2022: 130) は、格助詞ニのプロトタイプの意味は「存在の場所」や「点的場所」と述べる。同書は、「存在の場所」を示すニが使われる動詞の例として、存在動詞「ある」「いる」、非存在動詞「ない」、準存在動詞「暮らす」「住む」「泊まる」「たたずむ」「残る」「入る」「勤めている」、くっつけ動詞・移動動詞の状態態「立っている」、ありかを占める運動「住んでいる」、ありかを占める変化「詰まる」、状態変化・位置変え・設置「垂らす」「迎える」「立てる」「飾る」「置く」等、所有動詞「もつ」、認知活動の動詞「見る」、描き取り「記す」などを紹介している。また、この種のニに対し、岡田・奥田 (2015: 101) は「静的目標」や「定位」とまとめ、岡 (2013: 142) は「存在のスキーマ」を設定する。

- (6) a. 机の上に本がある。 (丸山 2022: 131)
b. ステージに幕を垂らした。 (ibid.)
c. 銀座うらに店をもっている。 (ibid.)
d. 家々を兩岸に見つつ... (ibid.: 132)

ニを使うと文語的な表現と見なされる場合もある。丸山 (2022: 132) によると、(7a-c)の各文では一般的にデを用いることが多いが、ニでは文学的・書きことばの様相を呈する。

- (7) a. 荒野にさまよう。 (丸山 2022: 132)
b. 駅前に待つ。 (ibid.)
c. 母校に会す。 (ibid.)

その他に、「出現の場所」を示すニには、出現動詞「現れる」「生える」や生産動詞「作る」が使用される (丸山 2022: 132)。

- (8) あごに髭が生える。 (= (1b))

2.1.2 移動の着点

「存在の場所」以外に、ニは「移動の着点」を表すこともできる。動詞には、方向性を持った移動動詞「行く」「来る」や主体の状態変え「嫁ぐ」、数量的到達「届く」、方向「向く」「向ける」などが用いられる (丸山 2022: 136)。(9)には自動詞「行く」「着く」、(10)には他動詞「やる」「投げる」が使われている。また(11)のように、その場所に到達していないとしても、方向のみを表すことが可能である (*ibid.*: 136)。

- (9) a. 子供が学校に行く。 (丸山 2022: 136)
b. 大阪に着く。 (*ibid.*)
- (10) a. 子供を学校にやる。 (丸山 2022: 136)
b. 海にボールを投げた。 (*ibid.*)
- (11) a. 職場に出かける。 (丸山 2022: 136)
b. 西に向く。 (*ibid.*)

なお、着点を表すニ (= (12a))は格助詞へ (= (12b))と言い換えが可能な場合が多いが、移動を前提としていないニ (= (13a), (14a))はへ (= (13b), (14b))と交替することができないとされる (森田 2007: 268)。岡田・奥田 (2015: 100) が述べるように、ニは「動詞が表す移動性」に着目しているといえる。

- (12) a. 東京駅に行く。 (森田 2007: 268)
b. 東京駅へ行く。 (*ibid.*)
- (13) a. 図書館にある。[ニ=存在の場所] (森田 2007: 268)
b. * 図書館へある。 (*ibid.*)
- (14) a. 日本に居る。[ニ=存在の場所] (森田 2007: 268)
b. * 日本へ居る。 (*ibid.*)

2.2 日本語格助詞デ：動作が行われる場所、面的場所

格助詞デが場所を表す場合、岡 (2013: 189) は「動作が行われる場所」、岡田・奥田 (2015: 101) は「動詞の作用の行われる場所」、丸山 (2022: 130, 156) は「動きの場所」「面的場所」と説明している。動きを伴うため、点ではなく面の場所が想定されることになる。

また、(15a-c)のように具体的な場所が導入されることもあれば、(16a-c)のように抽象的な場所が導入されることもある (丸山 2022: 157)。

- (15) a. 庭で犬が吠えている。 (=2a))
b. 東京ではたらく。 (=2b))
c. 公園で遊ぶ。 (丸山 2022: 157)
- (16) a. 停電の闇のなかで考えた。 (丸山 2022: 158)
b. その光のしたで新聞を読む。 (=2d))
c. ドイツの大学で学んだ。 (=2f))

改めて前節で紹介した格助詞ニとの違いについて触れておくと、森田 (2007: 267) はデが行為の場所の指標を表すと説明している。(17a)の「食卓 (で)」は行為の場所となる一方で、(17b)の「食卓 (に)」は存在の位置となっている。

- (17) a. 食卓で茶を飲む。 (森田 2007: 267)
b. 食卓に両親がいる。 (*ibid.*)

2.3 英語前置詞 at との関わり

ここまで確認してきたように、日本語の格助詞ニとデは意味が異なる。それにもかかわらず、英語の前置詞 at はその中心的な意味として「～に」「～で」を設定していることが多い。例えば、『ウィズダム英和辞典』では、(18a-b)の例文と日本語訳が同一項目の中に掲載されている。

- (18) a. He lost his wallet at the airport.
彼は空港で財布をなくした。 (ウィズダム英和辞典, p. 121)
- b. I'll be at Annie's house all morning.
午前中はずっとアニーの家にいるよ。 (ウィズダム英和辞典, p. 121)

また上掲書において、at は「点」と見なされる狭い範囲の場所を指すと述べられている

(p. 121)。他の先行研究においても、多くの場合で「点」の意味に言及されている⁵。しかしながら、2.2 節で紹介した通り、デは「面的場所」や「動作が行われる場所」を表すことから、「点」の概念とは相容れない部分があるのではないかとと思われる。

3 日本語格助詞ニ／デの文例調査および考察

2 節において、ニの「存在の場所」「点的場所」「移動の着点」およびデの「動作が行われる場所」「面的場所」という意味を確認したが、この 2 つの格助詞は明瞭に使い分けられるというわけでもなく、どちらも使えるようなケースが存在する。例えば、(19a-b)では電車やバスが止まるべき場所に止まっている様子が描写されている。この両者の違いはどのように説明すると良いだろうか。

- (19) a. {駅／バス停}に止まる。 (作例、=(3a))
 b. {駅／バス停}で止まる。 (作例、=(3b))

結論を先取りすると、「存在の場所」や「移動の着点」を示す二であれば、その場所で行われているのではなく、その場所に主体 ((19)では電車やバス) が静的に存在することが求められるため、その後の主体の動作は想定されていないのではないかと考えられる。一方で、「動作が行われる場所」を表すデであれば、その場所で主体が動作することが求められており、その後の主体による動作を想定することも妨げられない。

これらのことを以下の例文(20)–(22)で確認してみよう。(20a–b)は車が走行しているという状況であり、本来は車が走っていることが想定される中で、その動作が中断される場合、前提として車がそこに静的に存在することは考えられていないために、(20a)のように二を使うとやや不自然に感じられる。副詞的表現である「急に」を挿入すると、より違和感が出てくる。他方、(20b)のデは自然である。

- (20) a. ? 運転中、車が坂の途中に (急に) 止まった。 (作例)
b. 運転中、車が坂の途中で (急に) 止まった。 (作例)

⁵ 詳細は、田尾 (2025) を参照されたい。

それに対して、(21a-b)は車庫の内部に車を止めることが動作の目的となっており、その後の車の動作はない、すなわち静止していることが想定されるので、(21a)のニの方が(21b)のデよりも自然に感じられる。逆に、(22)のように車が静止することが想定されていない文脈では、デの方が用いられやすくなる。

- (21) a. 車が車庫の中に止まった。 (作例)
b. ? 車が車庫の中で止まった。 (作例)
(22) a. ? 車が崖の寸前に止まった。 (作例)
b. 車が崖の寸前で止まった。 (作例)

ただし、主体による後続の動作が想定され得る場合であっても、下記の(23)のようにニが用いられる事例がある。(23)は終着駅ではなく、路線の途中で停車する駅の1つを取り上げたアナウンスである。ここでは、駅が「一時的」な「存在の場所」や「移動の着点」として見なされているのではないかと考えられる。一つ前の駅から出発し、その次の駅に到着するまでの間を一つの動作として捉えているわけである。言うまでもなく、その後も電車は動き続けるのだが、目的の駅に着くことに焦点を当てるのであれば、その後の電車の動きを追う必要はなくなる。一定の区間での動作を繰り返す場合に、(23)のような表現が許容されてくるのであろう。

- (23) [電車内のアナウンスで] 次は、豊中に止まります。 (実例⁶)

動詞が表す動作の継続が想定されるか否かについては、上記のような文脈情報だけでなく、文法的操作が関係することもある。(24a)のように「島国に暮らす」が動詞表現として機能する場合にはやや違和感や古風さがあるものの、(24b)のように名詞表現の修飾部として機能する事例はコーパスでも数多く観察される。また、(25b)のように暮らしている状態に言及する表現であれば、「存在の場所」を表すニをより自然に用いることができる。名詞表現や状態を示す表現にすれば、動作性が感じづらくなるからだと考えられる。

⁶ 本稿において、例文の末尾に (実例) と付しているものは、筆者が日常生活の中で見聞きした表現である。

(24) a. ? 日本人は島国に暮らす。 (作例)

b. 島国に暮らす日本人には、国境を越えるという感覚がつかみにくいもの。
(少納言コーパス)

(25) a. ? 東京に暮らす。 (作例、cf. (4a))

b. 東京に暮らし始めてから早 10 年が経つ。 (作例)

また、「移動の着点」に関係すると思われるが、ニは「動作の完了性」を伴うことがあるという点も特徴の一つである。(26a-b)はデが使われるケースである。これまでに議論してきたように、これらは「溺れる」や「沈む」という動作自体に注目する表現である。

(26) a. これを私は、泳ぎの上手な人が背の立つ浅瀬で溺れるメカニズムとして、学会で発表したことがある。
(少納言コーパス)

b. 寺の行事が全部違いますし、淀川の上流のダムが出来ることになって、ダムで沈む村の檀家もあって、お盆、正月になると大変なんですよ。
(少納言コーパス)

一方で、(27a-d)ではニが用いられている。(27a, c)は「溺れる」や「沈む」動作というよりもその動作の結果や完了に焦点が当たる表現であり、(27b, d)の比喩的表現においてはその意味合いが強くなる。酒や博打、悲しみにはまって抜け出せない様子が描かれており、このニュアンスはデで表すことは難しく、コーパスで検索しても出力される件数は少ない。

(27) a. 水に溺れるケースで死亡する 50%が酒に酔っ払って水に入ったものという報告がある。
(少納言コーパス)

b. 酒と博打に溺れる姿は私の修業時代と変わりませんでした。
(少納言コーパス)

c. 木炭は備長炭がよいが、硬くお風呂に沈む木炭ならなんでもよい。
(少納言コーパス)

d. (...) 同時に、悲しみに沈む彼女たちの心に、未来への希望の明かりをともしたかったからでもある。
(少納言コーパス)

本節での議論をまとめると、ニは「存在の場所」「点的場所」「移動の着点」の他にも「一定区間での動作の繰り返し」「動作の完了性」という性質が絡む格助詞であり、デは「動作が行われる場所」「面的場所」や後続する動作が関係する格助詞であるといえることができる。

4 英語前置詞 at との対照

2.3 節で確認した通り、前置詞 at には「～に」「～で」の日本語訳と「点」の場所というイメージが与えられることが多い。しかし、格助詞ニとデには重なり合う部分がありつつも別々の性質があり、特にデの「面的場所」は「点」とそぐわない性質であると思われる。

そもそも前置詞 at はどのような意味なのであろうか。(28a-b)は地図上の一点を示す表現であるが、(29a-b)は「机」や「銀行」という場所だけを指しているのではなく、そこでの活動が示唆される表現である。すなわち、「机で作業をする」「銀行で働く」ということである。これらは格助詞デの「動作が行われる場所」「面的場所」に關係する意味である。しかしながら、(29a-b)を日本語で直訳すると、be 動詞は存在動詞「ある」「いる」に対応すると考えられるため、「机 (のところに) にいる」「銀行にいる」とニが用いられることになる⁷。この場合、at は形式上はニに対応するが、意味上はデに対応しており、日本語と英語の間でずれが見られることになる。もちろん、(30)のように、「ホテルで待つ」と訳し、形式上および意味上ともにデに対応することもある。また、すでに確認したように、(28a-b)を日本語に訳すと「ヴィクトリア通り 10 番地に住む」「駅に着いた」となり、at がニのような「点」の意味を表すこともあるため、at には「点」と「面」の双方の性質が關係していると考えられる (表 1 を参照)。

- (28) a. They live at 10 Victoria Street. (安藤 2012: 12)
b. I arrived at the station just in time. (ibid.)
(29) a. Maggie is at her desk. (Herskovits 1986: 135)
b. She has been at the bank for a long time. (畠山(編) 2022: 62)
(30) I'll wait you at the hotel. (田中 2017: 32)

⁷ そこから「机で作業をする」「銀行で働く」という意味が導かれる。Herskovits (1986: 134-136) や畠山(編) (2022: 62) も参照されたい。

表 1：格助詞ニ／デと前置詞 at の関係

前置詞 at の表現	形式 (日本語への直訳)	意味
They live <u>at</u> 10 Victoria Street. (=28a)	ニ (「10 番地 <u>に</u> 住む」)	ニ (「10 番地 <u>に</u> 住む」)
I'll wait you <u>at</u> the hotel. (=30)	デ (「ホテル <u>で</u> 待つ」)	デ (「ホテル <u>で</u> 待つ」)
Maggie is <u>at</u> her desk. (=29a)	ニ (「机 (のところ) <u>に</u> いる」)	デ (「机 <u>で</u> 作業する」)

5 まとめと今後の課題

本稿では、日本語格助詞ニ／デと英語前置詞 at を比較し、上の表 1 のように知見をまとめた。at にはニとデの双方の性質が見られ、特に形式と意味が一致しない事例 (*Maggie is at her desk* =(29a), 形式はニ、意味はデ) があることを確認した。今後の課題としては、数量的調査の実施や、他の日本語格助詞や英語前置詞との比較を行うことが挙げられる。

参考文献

- 安藤貞雄 (2012) 『英語の前置詞』 東京: 開拓社.
- 畠山雄二(編) (2022) 『正しく書いて読むための英語前置詞事典』 東京: 朝倉書店.
- Herskovits, Annette (1986) *Language and spatial cognition: an interdisciplinary study of the prepositions in English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 丸山直子 (2022) 『書き言葉と話し言葉の格助詞：コーパスと辞書記述の観点から』 東京: ひつじ書房.
- 森田良行 (2007) 『助詞・助動詞の辞典』 東京: 東京堂出版.
- 岡智之 (2013) 『場所の言語学』 東京: ひつじ書房.
- 岡田美穂・奥田俊博 (2015) 「場所を表す名詞に下接する格助詞『に』『で』『を』について：日本語教育の観点に基づく先行研究の整理と課題」『九州共立大学研究紀要』 5(2): 99-105.
- 田中茂範 (2017) 『田中茂範先生のなるほど講義録③ 改訂新版 英語のパワー基本語 [前置詞・句動詞編]』 東京: コスモピア.
- 田尾俊輔 (2025) 「英語前置詞 at の意味論 - 『点』を生み出すメカニズム-」 大阪大学大学院言語文化研究科博士学位申請論文.
- (辞書) 井上永幸・赤野一郎(編) (2015) 『ウィズダム英和辞典 第3版』 東京: 三省堂.
- (コーパス) 少納言 KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)」 <https://shonagon.ninjal.ac.jp/>